

課題

国語科

覚えてあなたも平安文化人 ～小倉百人一首

上の句

1. 秋の田の かりほの庵の 苦をあらみ
2. 春すぎて 夏来にけらし 白妙の
3. 田子の浦に うち出でてみれば 白妙の
4. 奥山に 紅葉踏み分け 鳴く鹿の
5. 天の原 ふりさけ見れば 春日なる
6. 天つ風 雲のかよひ路 吹きとぢよ
7. 君がため 春の野に出でて 若菜つむ
8. このたびは ぬさもとりあはず 手向山
9. みかの原 わきて流るる いづみ川
10. ひさかたの 光のどけき 春の日に
11. 人はいさ 心も知らず ふるさと
12. かくとだに えやはいぶきの さしも草
13. 滝の音は 絶えて久しく なりぬれど
14. 大江山 いく野の道の 遠ければ
15. 夜をこめて 鳥のそら音は はかるとも
16. さびしさに 宿を立ち出でて ながむれば
17. わたの原 漕ぎ出でてみれば 久方の
18. ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば
19. 村雨の 露もまだひぬ まきの葉に
20. ももしきや 古き軒端の しのぶにも

下の句

- わが衣手は 露にぬれつつ
衣ほすてふ 天の香具山
富士の高嶺に 雪は降りつつ
声聞くとときぞ 秋は悲しき
三笠の山に 出でし月かも
乙女の姿 しばしとどめむ
わが衣手に 雪は降りつつ
紅葉のにしき 神のまにまに
いつ見きとてか 恋しかるらむ
しづ心なく 花の散るらむ
花ぞ昔の 香ににほひける
さしもしらじな 燃ゆる思ひを
名こそ流れて なほ聞こえけれ
まだふみもみず 天の橋立
よに逢坂の 関はゆるさじ
いづくも同じ 秋の夕暮れ
雲居にまがふ 沖つ白波
ただ有明の 月ぞ残れる
霧たちのぼる 秋の夕暮れ
なほあまりある 昔なりけり

作者

- 天智天皇
持統天皇
山部赤人
猿丸太夫
阿倍仲麻呂
僧正遍正
光孝天皇
菅原道真
藤原兼輔
紀 友則
紀 貫之
藤原実方
藤原公任
小式部内侍
清少納言
良暹法師
藤原忠通
藤原実定
寂蓮法師
順徳院